

第5・6学年 体育科学習指導案

日 時 7月11日(土) 1校時

対 象 5・6年3組 16名

授業者 梶 雄一朗

- 1 単元名 「シュートまでどうつながぐ？」(E ボール運動, A ゴール型)
教材 「フットホッケー」

2 校内研究との関わり

本時では、ゲームの様子を可視化しながら「よりよい攻め方」を考える。具体的には、チームで対話しながら「よりよい攻め方」のバリエーションを増やしたり修正したりする姿を目指す。特にシュートまでつながぐことができるようにパックを持っていない児童の動きに焦点を当て、コート状況に応じた動きにつながるようにしたい。

これは、「B 学びの主体性を育てる」提案で、以下の「自律」を期待するものである。

㊦子どもが選択する場面生まれる。

㊦児童が自分で方法を考える。

さらに、言葉や図など多様な表現を認めること、一人ひとりの考えの違いを認めたり、友達の意見に付け足したりしながら共有することを通して、

①学習に関する多様性

を生かした学びにつなげたい。

3 本時の授業

- (1) 目標 チームで立てた作戦を基にゲームを行う活動を通して、空いている場所にパックを運ぶことでシュートの機会が増えることに気づき、成果や課題を基によりよい作戦を考えることができる。

- (2) 展開 5/6

学習活動	・教師の働きかけ ◎評価 ☆支援 □■校内研究との関わり □：自律 ■：多様性
1 めあてを設定する。 (1) めあてを確認する シュートまでどうつながぐ？ (2) 基礎感覚づくりを行う。 ・カーリング(ける)※全チーム共通。 ・チームでメニューを選択(基礎感覚づくりから) 2 ゲーム1を行う。チームの課題をさぐる。 (前半2～3分、後半2～3分) (1) ゲーム1を行う (2) チームの課題を話し合う ・ゲーム終了時に動画で動きを確認する。 ・声を掛け合うとパスがつながった。	・前回の様子をチームで共有できるように前時の振り返りなどを活用する。 ・ルールや授業の流れが分かるように提示物を準備しておく。 ・けることに重点を置いてチームで基礎感覚づくりを行う。 □チームで成果や課題を考え、必要なメニューを選んで取り組む。 [自律㊦] ・コート全体が見えるように、タブレットを事前に設置しておく。 □チームでパックをつなげることが意識できるように動きや配置などを意識させる。 [自律㊦] ☆自チームの動きと相手チームの動きを視覚化できるように状況に応じてタブレットを活用する。 □自チームの動きを基によりよい動きを書き出す。 [自律㊦] ■友達の考えや自分の考えを整理し、バリエーションを増やしていく。 [多様性①]

※ホワイトボードを使用してチームで共有する。

- ・空いているところにパスを出してそこに走ればパックはつながる。

3 ゲーム2を行う。チームで話し合ったことを試す。
(前半2～3分, 後半2～3分)

※対戦相手は, 変更しないで行う。

4 振り返りをする。(個・チームで振り返る)

- ・相手のいないところにけるとシュートにつなげやすかった。
- ・空いているところに動くとパスがつながった。

まとめ

- ・つなぐためには, 空いているところをねらってパックをける。
- ・相手のいないところに動くとパスがつながる。

5 片付けをする。

☆成果や課題に対して困惑している場合は, シュートまでいった場면을想起するよう促す。

- ・整理したチームの成果や課題の確認と, 作戦が上手くいくのかの試しの場とするため, 対戦相手を変えないで行う。

◎自己やチームの成果や課題について振り返り友達に伝えたりノートに記入したりしている。

【思考・判断・表現】発言, 記述, ノート

- ・自チームの成果と課題, 分かったこと, できるようになったことなどを振り返る。ノートを充実させるために観点を示したり, 図を記入したりできるよう学習ノートを工夫する。

- ・皆で協力して後片付けを行う。